



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから
[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>



特集 他団体と連携するクラブ

- ▶▶▶ NPO法人ただみコミュニティクラブ
- ▶▶▶ いきいきエンジョイ清原スポーツクラブ

特別企画

- ▶▶▶ 運動・スポーツ活動時における熱中症予防対策

連載 みんなで盛り上げよう！オリンピック・ムーブメント

- ▶▶▶ 一般社団法人いわしろふれあいスポーツクラブ
- ▶▶▶ 福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

他団体と連携するクラブ

NPO法人ただみコミュニティクラブ ＜福島県南会津郡只見町＞

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、地域社会からの信頼性を確保し、地域の各種機関・団体との相互補助の関係を築くことが必要となってきます。

そこで今回は、地域の各種団体と連携し、活動を行っている総合型クラブを紹介します。



1. 外部の専門家が入る事業にクラブスタッフ全員が関わり、他機関との連携事業のあり方を学ぶ
2. 各機関の方々、保護者、地域をつなぎながら事業を進め、徐々に点が線となり面に
3. 幼児対象の事業に取り組み、未来を担う子どもたちの成長と支援に一つの方向性が示される

1 クラブ概要

クラブ設立の背景には、「マイナスイメージの強い豪雪地帯においても、楽しく雪上スポーツで地域おこしができないだろうか」という思いがありました。地域の有志(自営業・農業従事者・運送会社・公務員・団体職員等15名)で平成18年に設立準備委員会を設置し、平成20年2月に総合型地域スポーツクラブとして設立し、平成24年8月には法人格を取得しました。

クラブ理念は、広く一般地域住民を対象として、文化、スポーツ、レクリエーションを通して、スポーツの振興、地域住民の健康増進、地域のコミュニティ構築、豊かな高齢者社会の創造及び青少年の健全育成に関わる事業を展開し、健康で豊かな生活を送ることができる社会の実現に寄与することを目的としています。現在は、定期スポーツ教室の実施以外に、高齢者健康維持教室、学童期の居場所づくり連携事業、幼児の体力向上事業支援、スポーツ交流型観光推進、助成金による地域資源を生かしたスポーツの推進に力を入れて活動しています。特に少子高齢化の町が抱える地域の課題解決の一助となるよう地域のコミュニティを大切に、健康経営の分野にも取り組みを広げています。



2 地方創生事業に参画→連携団体は県外にも拡大

過疎化が進み高齢化率が45%の只見町においては、持続可能な地域社会基盤の構築と、その担い手や支え手となる人づくりとその確保が喫緊の課題になっています。

これまでは、地域内の団体および関連団体を中心に連携し、“スポーツ振興”を通じて各種事業を行ってきましたが、平成28年度から地方創生事業のプロジェクトにメンバーとして参画する機会を得たことで、専門家による支援や事業手法を学びながら一緒に実務も担い、公共政策とまちづくりというより幅広い視点で地域のあり方を考え、その中でクラブが担っていく役割や今後の事業方針を検討するようになりました。

地方創生のプロジェクトでは、クラブのこれまでの活動実績やノウハウを生かし、地域の人づくりと地域内のつながりをつくるコア拠点・ハブとなる人材としての役割を担っています。これにより、連携する機関・団体は、地域内にとどまらず県外にも拡大しています。

「地方創生事業のプロジェクト」

【事業名】ふるさとの未来を託せる子供を育てる環境づくり事業

【概要】

只見町では、「ひと・まち・しごと」の創生と好循環において、若い世代も含め、自らの希望に添った地方生活を応援する環境づくりを進めています。その取り組みの一環として、官民連携し、町内資源を活用し町の魅力づくりに資する子育て機能の充実強化策として、国内初のICTを活用した子どもたちの発育・発達支援事業を展開しております。また、子育て家族の交流や子育て文化の継承を兼ねた拠点としてトレーラーハウスを活用した”ママカフェ”を整備し、ふるさとの未来を託せる子供を育てる環境づくり事業に取り組んでいます。



ただみ健やか発育発達支援事業～さんさんキッズプロジェクト～

【事業内容】

主として町内3保育所に通う園児3歳から5歳を対象として活動量のデータを測定

【クラブ側の事業への関わり】

- 保育士への運動あそびに関する情報伝達やOJTのサポート
- 園児自らが楽しく体を動かす運動あそびを習慣づけすることによる体力向上支援サポート
- 子育てに関わる情報を保護者に伝達し、子育て講演会や運動あそびの実践教室を支援
- 各保育所の活動量データの収集と調整

コンサルティング会社が事業受託代表 町と協力し6団体で連携

平成27年度から事業準備を開始し、平成28年度から地方創生事業「ふるさとの未来を託せる子供を育てる環境づくり」の一環として、子どもたちの生きる力を育てるための支援、それを支える周りの人・環境づくりの取り組みを行っています。事業受託代表企業であるコンサルティング会社の下、クラブを含め、全部で6つの企業・団体・研究機関がアライアンスを組み、地域づくりの総合事業の一環として、町とも協力し事業の方向性を確認しながら取り組んでいます。

データ分析で現状を可視化→年々確実な成果が生まれる

現状の可視化として、幼児期の段階から活動量、睡眠、運動能力、生活習慣の状況など様々な視点でデータを取得し分析しながら、客観的評価のフィードバックやそれに合わせて保育士・教員等の専門職、保護者、地域住民への情報提供と教育機会を持つなど複合的な支援基盤の構築を進めてきました。この取り組みは1年1年確実な成果となって現れてきており、子どもたちの体力・運動能力の変化だけにとどまらず、自ら考え主体的に動くといった行動につながり、また子どもたちの成長を支える教育関係者、保護者、地域住民へとその広がりを見せています。

財源は町と国の予算から

この事業は町の予算と国の公募型の予算を合わせて財源としています。公募申請については企画書作成のための立案や事業実施の流れや取り組み方についても外部の機関に支援していただいています。他団体と連携して事業を進める場合のクラブが担うべき(担える)役割についてもプロジェクトメンバーとして確認しながら進めています。



事業で多くの学び スタッフの質が向上し意識改革も

このプロジェクトにおいては、クラブスタッフが全員で関わっています。外部の専門家(健康経営コンサルタント・民間スポーツクラブ・SE・研究機関・総合情報サービス企業)が入って取り組むこの事業にクラブスタッフが関わることで、最新の知見や他機関との連携事業のあり方を学ぶよい教育機会ともなり、スタッフの質の向上や意識変革にもつながっています。大切にしていることは、新しいことに挑戦する気持ちを持ち続けることです。事業に主体的に取り組むことを実践していくことで多くの学びを得ています。各機関、事業に関わる方々、保護者、地域をつなぎながら事業を進めている3年目、徐々に点が線となり面となりはじめています。成果が見える嬉しさと新たに見える課題にどう取り組むかを日々考えることも、プロジェクトの一員となってみると楽しみの一つに変わってしまうから不思議です。これこそが他団体との連携で得ることができる価値ではないでしょうか。町と同じ方向性を共有しながら、企業や関係機関と連携して事業を進めるのは、クラブとしても大きな自信と実績となっています。

4 保護者の関心高まり、事業が発展

他団体との横のつながりを重視 クラブは地域のつなぎ役

クラブの役割は、事業を実施していく中においても、地域のつなぎ役であることです。各々の機関との横のつながりを大切にしながら進めていることが事業の強みとなっていますし、連携することによって得られる専門性や情報の正確性、サポート体制や多岐にわたるネットワーク、将来に向けての効果やビジョンの広がりを考えても、子どもたちの成長を支える事業として続けていくことが大切であると考えます。この事業に先駆けて、教育委員会との連携事業として学童期の放課後の居場所づくり事業『子育てひろば』を6年間実施してきたことを考えると、幼児を対象としたこの事業の取り組みは、わが町として未来を担う子どもたちの成長と子育て支援に一つの方向性が示されました。

毎年、この事業の中で子どもたちに関する生活習慣アンケート調査を保護者に実施し、この事業に対する意見や思いが自由記述欄に綴られるケースが年々増加しています。この事業に期待する保護者の関心の高さは事業の理解と協力にもつながっていますし、施策として取り組む町の子どもたちを取り巻く環境への理解が、この事業の発展に結びついていることを実感しています。



連携団体からの声 「地域団体の『やる気』と『思い』が真の成果につながる」

「われわれ外部の専門家が入って支援を行うことは可能ですが、コアになる存在として欠かせないのは、やはり地元の地域団体の『やる気』と『思い』です。私たちは最初の取り組みのきっかけづくりの方向性を示し、動き出すための最初の支援は行えますが、取り組みが地域に根付き真の成果につながっていくには、そこにいる地元の方が『わがこと』として捉え、主体的に考え行動することが大事です。地域の顔の見える存在として活動してきたクラブのこれまでの実績やノウハウといった土台があってこそ、これらの事業が展開できると感じています」

5 クラブ側の役割は事業の調整とフォローが中心

クラブとしては、初めての企業や各機関との連携事業でしたので、企画・立案から実践までのスピードの速さに驚きました。事業の進め方についても学ぶところが多く、新鮮な気持ちで取り組んでいます。事業の細かい調整やフォローに回ることが多いですが、毎年子どもたちの成長や地域の子育て意識が変わっていることを実感することが多く、この事業の意義深さを感じています。

6 永続的なまちづくりに向け、保ち続けたい「三つの目」

少子高齢化が加速する地域において、人・分野・世代・地域を超えて、「人」「モノ」「お金」「思い」が循環し、相互に支える・支えられる関係づくりが不可欠になってきます。

中でも、まちづくりの基本となる人づくりは重要であり、これを中核に据えて事業を行っているクラブの意義や役割も大きいと感じています。居心地が良く未来に続く永続的なまちづくりのあり方をともに考え取り組むメンバーの一員として、「三つの目」が大切と考えます。それは、広い視野で物事全体を見つめていく「鳥の目」と、現状をきっちりと把握し足元を見つめ直す「虫の目」、今後どのような展開になりそうなのかを予測し時代の流れや社会の変化を捉え対応を検討する「魚の目」です。一つずつ丁寧に相互支援の関係を生かしながら今後も取り組んでいきたいと思えます。

(NPO法人ただみコミュニティクラブ クラブマネジャー 平山真恵美)



クラブプロフィール

設立年月日 平成20年2月29日

所在地 福島県南会津郡只見町

運営 会員数290名(平成30年4月現在)、予算規模2,000万円(平成30年度)

有給職員 2名

特徴 少子高齢化の町で地域資源を活用したスポーツを通じて地域の活性化に取り組んでいます。町と連携し、多岐にわたる職種の方々、団体、各機関の協力を得ることで新たな視点も生まれチャレンジし続けることが活動の継続につながっています

連絡先 〒968-0601 福島県南会津郡只見町小林字下前田412番地

電話番号 0241-86-2671 FAX 0241-86-2587

URL <http://tadami-cc.com/>

E-Mail info@tadami.info



特集

他団体と連携するクラブ

いきいきエンジョイ清原スポーツクラブ ＜栃木県宇都宮市＞

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、地域社会からの信頼性を確保し、地域の各種機関・団体との相互補助の関係を築くことが必要となってきます。

そこで今回は、地域の各種団体と連携し、活動を行っている総合型クラブを紹介します。



1. NPO法人格取得を断念し、会費値上げでクラブ自立
2. 近隣大学との連携には大学側のキーマンが必要
クラブ側との長いつながりが契機に
3. 他の総合型クラブと地元プロスポーツチームの協力で「スポーツ祭典」が発展

1 クラブ概要

宇都宮市の2006年スポーツ振興基本計画による市内25中学校区すべてに総合型地域スポーツクラブを設立するとの決定を受け、清原中学校地区でも2008年9月清原地域スポーツクラブ設立準備委員会を結成、活動スケジュールを策定し、それに基づいて活動を進めました。2009年4月からはクラブ立ち上げへの本格的作業に移行し、クラブ名称募集により最優秀作「いきいきエンジョイ清原」が採用されました。2010年3月27日、設立総会を開催し「いきいきエンジョイ清原」はスタートしました。

当初は、バドミントン、スポンジテニス、ソフトバレーボール、バスケットボール、エアロビクス、ティーボール、3B体操、輪投げ、ペタンク、吹き矢の10種目で始まりました。1年目の会員数は210名を数え、まずまずの出だしでしたが、東日本大震災により、清原地区においても体育施設などが多大な被害を受け、しばらくの間使用が禁止された時期もありました。

2014年3月までは発足当時の会費と宇都宮市、自治会連合会からの助成金でクラブを運営していましたが、クラブの充実を図るため、totoの助成金を申請し、2016年度までの3年間助成金をいただくことができました。この期間で、用具購入やインターネットHPの作成、広告と多方面にわたりクラブを充実することができました。しかし、2017年度以降もtoto助成金を受けるにはNPO法人格を取得せねばならず、クラブ役員で検討を重ねた結果、「知恵も人材もない」、「片手間でのNPO法人運営はできない」との結論に達しました。そこで自立のため会費を値上げし、「助成金無しでも運営できる体質をつくろう」ということになりました。

2016年6月に検討を始め、同年8月に値上げに関するアンケート調査を実施した後、同年12月に臨時総会を開催。会員の皆様に値上げに至った経緯と値上げ後の会費、今後のクラブの運営について説明を行い、了承をいただくことができました。(例:大人3600円→9600円)

2017年4月からは、宇都宮市、自治会連合会の助成金と会費のみでクラブを運営していくことになりました。アンケートの結果からは会員数の激減を予想していましたが、会員の皆様の温かいご理解の下、2018年3月末現在、前年比20%減の236名にとどまり、値上げ後2年目を迎えています。役員一同、会員の皆様のクラブ継続への熱い思いを受け止めて運営に当たらなければならないと気持ちを引き締めております。

毎年種目の見直しを行い、2018年度の種目は、バドミントン、スポーツ吹き矢、スポンジテニス、フォークダンス、卓球、ソフトバレーボール、3B体操、エアロビクス、バスケットボール、カローリング、ソフトテニス、柔道、フットサル(小学6年まで)の13種目になっています。活動場所は主に清原中学校体育館、武道場、清原中央小学校体育館、清原台2丁目公民館です。これからも地域の方々の心と身体健康維持に寄り添ってまいりたいと考えております。

2 クラブ設立前から作新学院大と協力関係 →大学生が指導者

インターンシップで大学生受け入れ

クラブ設立前から、作新学院大学からは、講演での講師派遣依頼、各種会議、指導者選出などでご意見をいただいております。また、設立当時の茂木会長が清原体育協会の会長で、同体協が各種大会を主催する中で作新学院大学との協力関係が築かれました。設立後には、大学生が指導者として活動いただく中、インターンシップとして毎年スポーツクラブで5~6名の大学生を受け入れ、相互交流の良い機会になっています。2016年からは作新学院大学と清原地域振興協議会、いきいきエンジョイ清原SCの合同主催によるスポーツの祭典を開催するなど、スポーツを通じた地域の活性化を目的に協力態勢ができてきています。



クラブ単独の体験教室→機運高まり合同祭典に発展

2016年11月27日に「第1回清原スポーツ祭典」を、2017年11月12日には「第2回清原スポーツ祭典(兼河内地区SCフェスタ)」を作新学院大学構内で開催しました。それ以前は、いきいきエンジョイ清原単独で、市立清原中学校体育館にてクラブで行っているスポーツ種目の体験教室という形で開催していましたが、2015年に清原地域として「スポーツ活動を高め、地域を盛り上げよう」との機運が高まり、清原地域振興協議会が主体となり作新学院大学、清原地区自治会、清原体育協会、いきいきエンジョイ清原SCの5者合同でスポーツ祭典を催すことが決まりました。

大学生が献身的な支援活動 県内プロチームの応援も

スポーツ祭典実施前に行った2016年2月のいきいきエンジョイ清原SCの体験教室には、作新学院大学、清原地域振興協議会も参加され、スポーツ祭典に向けた姿を体感していただきました。その後、清原スポーツ祭典実行委員会で活発な討議がなされ、チラシや広告による集客を図り、11月の「第1回清原スポーツ祭典」の開催にこぎ着けることができました。祭典の当日は、大学生にもお手伝いいただき、用具の準備から片付け、体験者誘導など、献身的に活動してくださいました。また、実際に学生自ら体験に加わっていただくなど、楽しい時間を共有できました。さらに、県内プロスポーツチームである栃木SC(サッカー)、宇都宮ブリツェン(自転車)、栃木ブレックス(バスケットボール)からも応援をいただき、より充実させることができました。教室に参加した子どもたちは、どの子も笑顔で瞳を輝かせ、大きな喜びとなったのではないのでしょうか。

第2回祭典から宇都宮市内の8つの総合型クラブも参加

第2回スポーツ祭典(兼河内地区SCフェスタ)では、河内地区連絡協議会に加盟する10クラブのうち宇都宮市内8つの総合型スポーツクラブも運営に参加し、独自の展示ブースを設置して来場者にクラブの活動をPRするだけでなく、各種目への応援(用具設置・撤去、ボール拾い等の補助、体験者の誘導など)を行うなど盛り上がったイベントとなりました。

スポーツ体験種目以外にも、小学生を対象とした栃木SCによるサッカー教室や作新学院大学からのご提案で組まれた大学生によるランニング教室、ドッジボール、鬼ごっこ等のプログラムが展開され、子どもたちから歓声が上がっていました。

2018年度もこれまでのつながりを大切に、第3回開催に向けて協議を続けているところです。

※体験種目：バドミントン、スポーツ吹き矢、スポンジテニス、3B体操、エアロビクス、卓球、ソフトテニス、グラウンドゴルフ、輪投げ



4 作新学院大との教室連携は、小中学生会員と大学生にも学びの場に

バドミントン教室とソフトテニス教室で大学生が指導

先述のとおり、作新学院大学から小・中学生のバドミントン教室、ソフトテニス教室に学生指導者を受け入れてから10年近くになります。この間、当クラブとの連携で大学側の窓口役となったのが経営学部スポーツマネジメント学科の福田将史教授です。同教授の「インターンシップA」の授業では半期15回のうち5回を実技としており、当クラブでの教室指導を通して学生と小・中学生会員、相互の学びの場となっています。

また、プロサッカーチーム栃木SCの本拠地グリーンスタジアムが近隣にあり、本クラブでは栃木県の事業であるプロスポーツチーム派遣交流事業を活用し、当クラブの子ども会員向けサッカーイベントに栃木SC選手に来ていただくなどの連携事業がありました。

5 学生指導者のエネルギーが小中学生に伝わり「生きた学習」に

指導を受けた小・中学生会員にとっても、指導に当たった学生にとっても相互に有意義な活動となっているようです。学生は、活動を通して目の前の子どもたちと触れ合うことで地域に役立つ喜びを感じることができます。それによって得た学生指導者のエネルギーは、指導を受ける小中学生会員にとっても、しっかりと伝わっている様子で、そうしたエネルギー交換にも似た「相互の学び」は、単なる地域交流の域を超えて、まさに「生きた学習」となっていると言えるのではないのでしょうか。

6 帰路交通手段の関係で限定される学生指導者

スクールバスは夜8時で終了

福田教授によると、学生指導者の交通手段が課題の一つになっているということです。クラブが活動拠点としている中学校と大学は隣接しており、行き来する点では好立地です。しかし、バドミントン教室が終了するのは夜8時半過ぎで、参加する小・中学生会員は保護者の送迎ですが、学生にとっては駅へ向かう大学のスクールバス最終運行時間が夜8時までであるため、近隣に住んでいるか、自家用車等を所有していなければ交通手段がなくなってしまいます。



会員の習熟度が高く、学生指導者も高い競技レベルが必要

競技レベルの確保も課題のようです。バドミントン教室に集まる小・中学生会員は、学校での部活動後さらに練習の場を求めてやってくるため、競技レベルもある程度高くなっています。そのため、恒常的に指導者派遣をしようとする学生も競技レベルもある程度高いものが求められます。しかし、バドミントン部の学生の練習時間や各自のコンディショニング時間の確保と、クラブでの教室指導の両立は難しいのが現状です。一方、バドミントン経験者で大学部活動未加入者の中から、指導するに足る競技レベルを持つ学生を見つけることも難しい状況です。

そこで、「インターンシップA」の実技5回分を1回の集中講義とすることで大学生の負担を軽減し、競技レベルとクラブとの交流機会の両方を保ったまま、小・中学生会員と1日ゆったりと交流を持つことが可能となっています。

7 ⑦ 役員世代交代、指導者と活動場所の確保が課題

今、クラブとしては、4つの課題があります。それは、「クラブ役員世代交代」、「指導者の確保」、「活動場所の確保」、「昼時間帯に活動する際の指導者確保と会場の確保」です。

特に、クラブ役員は、クラブ発足当時からほとんど変わらず、新しい役員が入っていません。若い人達へいかにしてバトンを引き継いでいくかが課題の一つです。

また、活動場所の確保については、公民館をお借りして活動している種目もありますが、体育館を利用して昼間に活動を行うには学校では不向きです。そのあたりを解決できればと模索しています。

(いきいきエンジョイ清原スポーツクラブ 大森 満徳)



クラブプロフィール

設立年月日 平成22年3月27日

所在地 栃木県宇都宮市清原地区

運営 会員数236名(平成30年3月末現在)、予算規模280万円(平成29年度)

有給職員 1名

特徴

いきいきエンジョイ清原スポーツクラブは、心の豊かさを求める交流の場と楽しみながら健康を保てる種目および、心と身体の健康を保つ安らぎのある充実した時間を提供します。また、子どもから高齢者まで気軽にスポーツ活動に参加できる環境整備を目指し、健康で活力ある地域づくりに寄与します。

連絡先 〒321-3235 栃木県宇都宮市鑑山231 宇都宮市立清原中学校体育館内

電話 028-666-6231

E-Mail kiyohara.s-c@peach.plala.or.jp



特別企画

総合型クラブの運営においては、運動・スポーツ実施者の安全面に配慮した事業の実施が必要となります。

そこで、これからの季節、特に気を付けたい総合型クラブの活動における熱中症予防について、情報提供します。

今回は、日本スポーツ協会スポーツ医科学専門委員会「スポーツ活動中の熱中症事故予防に関する研究プロジェクト」班員である広島大学大学院総合科学研究科の長谷川博教授に解説いただきます。

運動・スポーツ活動時における熱中症予防対策

熱中症予防と体温調節

地球温暖化やヒートアイランド現象などの影響により、日本の気候は以前に比べ暑くなっています。特に日本の夏は、高温多湿環境であり、熱中症に留意する必要があります。熱中症を防ぐために重要となるのが、ヒトの体温調節のはたらきです。ヒトの体温は、通常、熱の産生（身体が産生する熱）と放散（輻射、伝導、対流、汗の蒸発などによって失われる熱）のバランスによってほぼ一定の値に保たれています。しかし、高温多湿環境では熱の放散が妨げられ、さらに激しい運動を行うことによって熱産生が増すと、体温が著しく上昇します。体温上昇に対して、身体は熱放散のための皮膚血流や発汗を促進させますが、湿度が高い環境では、汗の蒸発による冷却機能がうまく働かず、皮膚から汗がポタポタと流れ落ち、身体は脱水してしまいます。

熱中症を予防するためには、暑さを評価し、運動・スポーツ活動時に適切な休息を取ることや、水分補給および身体冷却等の暑さ対策を実施する必要があります。

熱中症発生の要因

運動・スポーツ活動時の熱中症の発生には、気温や湿度などの“環境”、“運動”の強度や時間、体力や暑さへの慣れなどの“個人”の要因が関係します（図1）。ここでは、2016年に日本サッカー協会（JFA）が策定した熱中症ガイドラインを用いながら、熱中症予防の留意点を紹介します。

図1. 熱中症発生の要因

- 環境の要因**
- 気温
 - 湿度
 - 輻射熱（直射日光）
 - 風速

- 運動の要因**
- 運動強度
 - 時間
 - 休息のとり方
 - 水分補給
 - 服装

- 個人の要因**
- 年齢
 - 体力
 - 肥満
 - 暑さへの慣れ
 - 食事・睡眠
 - 体調（疲労，発熱，下痢）



暑さの評価

熱中症予防のためには、環境条件を把握し、暑さを正しく評価することが大切です。暑さの指標として最近よく使用されているものはWBGT(湿球黒球温度)です。WBGTは気温、湿度、輻射熱を考慮した暑さ指数です*1。気温が高い時ほど、また同じ気温でも湿度が高い時ほど、熱中症の危険性が高まります。暑い時に無理な運動をしても効果がありません。

*1 [日本スポーツ協会の熱中症予防ガイドブックを参照](#)

熱中症予防運動指針

WBGT ℃	湿球温度 ℃	乾球温度 ℃		
31	27	35	運動は原則中止	WBGT31℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
▲ ▼	▲ ▼	▲ ▼	嚴重警戒 (激しい運動は中止)	WBGT28℃以上では、熱中症の危険性が高いため、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻繁に休息をとり水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さになれていない人は運動中止。
28	24	31	警戒 (積極的に休息)	WBGT25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。
▲ ▼	▲ ▼	▲ ▼	注意 (積極的に水分補給)	WBGT21℃以上では、熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
25	21	28	注意 (積極的に水分補給)	
▲ ▼	▲ ▼	▲ ▼	ほぼ安全 (適宜水分補給)	WBGT21℃未満では、通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。
21	18	24	ほぼ安全 (適宜水分補給)	
▲ ▼	▲ ▼	▲ ▼		

1) 環境条件の評価にはWBGTが望ましい

2) 乾球温度を用いる場合には、湿度に注意する。湿度が高ければ、1ランク厳しい環境条件の運動指針を適用する。



JFA熱中症ガイドラインでも、WBGTのレベルにより、クーリングブレイク*²や飲水タイム*³の休憩を設定することを提案しています。実際に運動・スポーツの現場においてWBGT計を用いて暑さ指数を測定できない場合は、気温と湿度から暑さを評価するか、環境省の熱中症予防情報サイトで近くのWBGTを参考にするとよいでしょう。運動・スポーツ教室や大会を開催する側としては、必要に応じて早朝や夜間に試合や練習を行う、選手の交代人数の制限をなくす、連戦や育成年代でしばしば見られるダブルヘッダーを行わない、最低でも中1日の休養日を設定するなどの対策を講じる必要があります。

図2. 熱中症対策(JFA熱中症対策ガイドライン2016)

1. ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。
2. ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える。
3. 各会場にWBGT計を備える。
4. 審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。
5. 観戦者のために、飲料を購入できる環境(売店や自販機)を整える。
6. 熱中症対応が可能な救急病院を準備する。特に夜間は宿直医による対応の可否を確認する。
7. Cooling Break*²または飲水タイム*³の準備をする。

*² 前後半1回ずつ、それぞれの半分の時間が経過した頃に、選手を日陰にあるベンチに座らせ、飲水以外に身体冷却等の戦略を積極的に行う。水だけでなくスポーツ飲料を摂取する。時間は3分間を上限とする。

*³ 前後半それぞれの半分の時間を経過した頃、アウトオブプレーの時に、ラインの外に置かれているボトルから飲水する。チームベンチの前で関係者から容器を受け取って飲水する。時間は30秒から1分程度。

個人の状態を把握する

体力不足、体調不良により運動能力が低下することは明らかです。またハードな練習に慣れていない初心者や新入生には特に注意が必要です。練習や教室の前に個人の状態を把握することが大切です。練習はへばるまでやらないと効果がない、という考えでは熱中症は無くなりません。また、高齢者や子ども、肥満気味の方は体温調節能力が劣っているため注意が必要です。夏季の運動・スポーツ実施時においては、競技力向上と健康管理のバランスのとれた計画が重要です。



暑さへの慣れと水分摂取

暑熱環境下で繰り返し運動・スポーツを行うと暑熱ストレスに対する抵抗力(暑熱耐性)が高くなります。このように暑さに身体が適応することを暑熱順化といいます。暑熱順化の効果として、安静時や運動・スポーツ活動時の体温の低下、皮膚血流が良くなり汗がかきやすくなるなど熱放散機能が向上します。暑熱環境下で運動・スポーツをする場合には、この適応を積極的に利用することが重要です。梅雨明け直後や夏のはじめはまだ身体が暑さに慣れていないため、運動・スポーツの強度や時間を徐々に増やしていくと良いでしょう。また、汗の量は個人差が大きく、暑熱順化によっても増えていくので、徐々に水分摂取量を増やす必要があります。運動・スポーツ活動中の水分摂取のポイントを参考にしてください(表1)。さらに、普段の運動・スポーツでは、飲水タイムを多く設定するなど、参加者がいつでも自由に飲料を摂取できる環境を整えることが重要です。

表1. 水分摂取のポイント

<p>【水分摂取の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運動前: 身体の水分、電解質を正常な状態に保つ ● 運動中: 運動パフォーマンスの低下を防ぐ、過度の脱水と電解質の損失を防ぐ、持久系競技ではエネルギーの補給 ● 運動後: 失った水分および電解質を回復する(塩分を含む食事との併用) 	
<p>【水分摂取量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 体重減少が2%を超えない範囲 ● 1回の摂取量は200~300mL(コップ1杯)程度 ● 一気に飲み、がぶ飲みを避ける ● 長時間運動時での水のみでの過剰摂取による、低ナトリウム血症に注意 	<p>【摂取タイミング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 試合の開始2時間前ぐらいから水分を摂取するよう心掛ける ● 可能なかぎりこまめ(15分毎など)に水分を摂取する ● 飲水タイムやクーリングブレイクを確保する ● 喉が渇く前に計画的に水分を摂取する
<p>【摂取成分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運動継続時間が短く、発汗量が少ないときは水でも問題はない ● トレーニングや試合の前後および試合の休息時は、身体への吸収の早さを考え、電解質と糖質を含んだスポーツ飲料などを摂取する ⇒塩分: 0.1~0.2%(ナトリウム: 40~80mg/100mL) + 糖質: 4~8%(4~8g/100mL) ● 水、スポーツ飲料、エネルギー系飲料など、目的に応じた組み合わせや工夫が必要 	<p>【摂取温度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 約5~15℃など飲みやすいもの ● 暑熱環境下の持久系の試合では、運動前や運動間にアイスラリー(-1℃)*3 を摂取することも効果的 <p>【コンディションチェック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● トレーニングおよび試合前後による体重測定 ● 日常の体重変化を1%未満におさめる ● 尿の量、色(薄い黄色)、比重(1.020未満)で確認する

*3 微細な氷と液体が混ざった氷飲料



まとめ

運動・スポーツ活動時の熱中症死亡事故は減少傾向にあります。しかし、いまだ根絶には至っていません。過度な体温上昇と脱水は、身体のさまざまな機能に影響を及ぼすだけでなく、運動パフォーマンスを低下させ、熱中症発生のリスクを高めます。運動・スポーツによる熱中症事故は「無理と無知」によって生じる人災であり、適切な措置を施せば、発生の頻度をゼロに近づけることができます。夏季でも質の高い運動・スポーツを行うことが重要であり、そのためには、参加者や指導者が十分な暑さ対策を実施したり、運営側は安全のための配慮や対策が重要です。

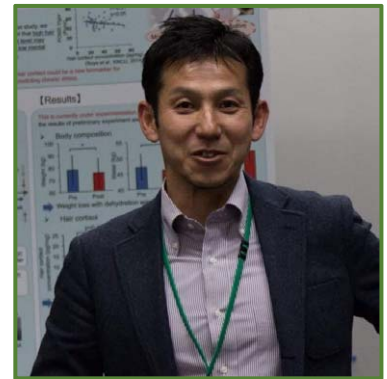
長谷川 博（はせがわ ひろし）

広島大学大学院総合科学研究科教授

専門分野は運動生理学、環境生理学、トレーニング科学。

日本スポーツ協会「スポーツ医科学専門委員会 スポーツ活動中の熱中症事故予防に関する研究プロジェクト」班員、国立スポーツ科学センター「東京オリンピック特別プロジェクト」研究員などを務める。

著書は、「リカバリーの科学, ナップ(2014)」、「体温Ⅱ, ナップ(2010)」、「もっと使えるスポーツサイエンス, 講談社(2017)」、「競技者のための暑熱対策ガイドブック, 国立スポーツ科学センター(2017)」など多数。





連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介



一般社団法人 いわしろふれあいスポーツクラブ ＜福島県二本松市＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、一般社団法人いわしろふれあいスポーツクラブが実施しているパラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

障がい者スポーツ体験教室

実施日時	平成29年11月2日(木)、15日(水)、29日(水)、12月5日(火)
実施会場	二本松市立小浜小学校の体育館・視聴覚室
参加者数	11/2(木) 5年生37人、6年生25人 11/15(水) 4年生32人、3年生32人 11/29(水) 5年生36人、6年生25人 12/5(火) 1年生29人、2年生20人
主催	うつくしま広域スポーツセンター(現 ふくしま広域スポーツセンター)
主管	(一社)いわしろふれあいスポーツクラブ
協力	福島県障がい者スポーツ協会、福島県障がい者スポーツ指導者協議会 二本松市立小浜小学校



1 企画経緯

障がい者のスポーツ環境整備の受け皿として連携事業を開始

うつくしま広域スポーツセンターより、地域の障がい者スポーツの機会や場の提供に関する連携事業のお話をいただきました。当クラブが、地域の障がい者のスポーツ環境の受け皿になることができるのではないかと、受け皿にならなくてはいけないのではないかと考えていた時期に、お話をいただいたこともあり、連携事業をお受けすることにしました。



「障がい者スポーツを地域で...、何をどう進めればよいのか...。」まずは、うつくしま広域スポーツセンター、福島県障がい者スポーツ協会、当クラブによる三者ミーティングを開催していただきました。ミーティングを進める中で、福島県障がい者スポーツ協会側から、同協会ではなかなかカバーできていないのが、小学校の支援学級の子ども達であるという話が出ました。「例えば、体育科の授業の支援に入らせてもらい、支援学級の子ども達を支援することはどうか」という声も上がりました。

支援学級だけでなく全校生徒が障がい者スポーツを体験

二本松市生涯学習課に事業を説明し、課長のご協力を得た上で、二本松市立小浜小学校にご相談に行きました。校長先生の最初の答えは『NO』でした。学校教育の現場で、特定の子どもだけを対象にはできないという、ごもったもな理由でした。

しかし、「せっかくの機会ですし、方法を探りましょう」という校長先生から温かいお言葉をいただきました。話し合いを進める中で、リオパラリンピックで障がい者スポーツ種目のボッチャ日本チームがメダルを獲得したことが話題になり、そこから話しがどんどん進みました。

「障がい者スポーツの数種目を全校生に体験させてあげられないだろうか」

「障がいがあっても無くても、一緒にスポーツを楽しむことができるという体験をさせてあげたい」

「この先、子ども達が成長していく過程で、もし障がいがある方と出会った時に、自然に言葉を掛けたり、手を差し伸べられる人になって欲しい。そんな心を育ててあげたい」

校長先生からは、上記のような提言が出たほか、「心を育てる勉強にもなりますが、体育科の授業の時間でもあるので、ある程度の運動量は欲しい」とのご意見もありました。



2 実施内容

11/2(木) 2校時...5年生『シッティングバレー』
3校時...6年生『シッティングバレー』
11/15(水) 2校時...4年生『講義』福島県障がい者スポーツ協会 増子恵美氏

〃 丸山内雄大氏

※パラリンピック公式教材を使用した講義

3校時...4年生『ボッチャ、ゴロバレー(シッティングバレー)』

4校時...3年生『ゴロバレー(シッティングバレー)』

11/29(水) 2校時...5年生『ボッチャ』

3校時...6年生『ボッチャ』

12/5(火) 2校時...1年生『風船バレー(シッティングバレー)』

3校時...2年生『風船バレー(シッティングバレー)』

シッティングバレーやボッチャは、各学年の運動適応能力に合わせて、ボールを変えたりルールを少し優しくしたり、楽しく運動できるように工夫しました。ウォーミングアップは、座ったままの鬼ごっこをして楽しく運動できました。

【実技指導の講師】

福島県障がい者スポーツ協会

増子恵美さん

〃

丸山内雄大さん

福島県障がい者スポーツ指導者協議会

伊達孝浩さん、眞田博史さん

〃

遠藤宣夫さん、黒澤淳子さん

シッティングバレーアスリート

佐藤浩さん、鈴木敦さん

いわしろふれあいスポーツクラブ

藤野美緒 クラブマネジャー

〃

藤代純子 アシスタントマネジャー

・増子恵美さん

パラリンピアンで、車椅子バスケットボールで活躍されました。

シドニーパラリンピックで獲得した銅メダルを子ども達に見せてくれました。

・シッティングバレーアスリートの佐藤さんと鈴木さん

お二人とも車椅子。低学年の女子から「どうして足を無くしてしまったんですか？」という質問に、「事故で足を無くしてしまった。最初の頃は辛かったけど、パラスポーツに出会ったおかげで楽しくスポーツができるし、仲間もたくさんいる」と教えてくれました。



3 参加者・運営側の声

参加者の声

- とても楽しかったです。またやりたいです。
- 座ったままの鬼ごっこ、疲れたけど楽しかったです。
- シッティングバレーは少し難しかったです。
- 増子さんの銅メダルを触れて嬉しかったです。
- 佐藤さんや鈴木さんが打つボールが早くてびっくりしました。
- また子ども達にポッチャをやらせたいです。(担任の先生)

運営者の声

- 障がい者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導者協議会との連携により、各回8名(クラブマネジャー含む)の指導者がいたので、グループ分けをして活動できたことが良かったと思う。
- 銅メダルを見て触れた時の、子ども達の『輝く瞳と笑顔』が最高でした。
- 運動量もあり、楽しみながら障がい者スポーツを体験させてあげられたので良かった。
- 障がいのある佐藤さん、鈴木さんと一緒に体験でき、お話も聞くことができたので子ども達の心に残る時間を提供できたと思う。

※藤野クラブマネジャーと藤代アシスタントマネジャーは、障がい者スポーツ初級指導者講習会を受講し資格を取得し、体験教室に臨みました。同資格と今回の経験を基に「今後の障がい者スポーツの活動に生かしたい」と語っています。

4 今後の展望

- 地域の障がい者の方がスポーツを楽しめる環境をつくっていききたい。
- 小学生に限らず、地域住民に対しても、障がい者スポーツを体験できる機会を増やしたい。
- 今後も障がい者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導者連絡協議会との連携を図りながら、様々な事業を展開していきたい。当クラブとしても、各団体に協力していきたい。

(いわしろふれあいスポーツクラブ クラブマネジャー 藤野 美緒)



クラブ プロフィール

設立年月日 平成14年5月16日

所在地 福島県二本松市小浜字芳池1番地

特徴 「心豊かな人づくり、笑顔あふれる地域づくり」を目指して活動しています。
・地域住民が余暇時間を有意義に過ごすことで、心の豊かさと気持ちにゆとりがある。
・地域の誰もが気軽に楽しく参加し、気の合う仲間、同じ趣味を持つ仲間とクラブライフを楽しんでいる。
・会員自らがクラブを育て、会員自らが笑顔で活動し続けている。

連絡先 〒964-0313 福島県二本松市小浜字芳池1番地(岩代公民館内)
TEL 0243-55-2260 FAX 0243-55-2070
E-Mail iws.shogaigakushu@city.nihonmatsu.lg.jp



4年生の授業で、パラリンピック公式教材I'm possibleを使用した講義。
講師は、福島県障がい者スポーツ協会の増子恵美さん。



シッティングバレーを体験。
学年によってボールを変えたり、ルールを優しくしたりして試合を体験。



ポッチャを体験。チーム戦で試合を体験。
接戦を繰り広げていました。



3・4年生はシッティングゴロバレーを体験。
担任の先生も一緒にプレー。





連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介



福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ＜福岡県福岡市＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が実施しているパラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 研修会 「クラブの引き出しを増やす」 ～障がい者スポーツを知る・体験する～

実施日時	平成30年1月20日(土)13:30～
実施会場	福岡県立北九州視覚特別支援学校
参加者数	39人
指導・助言	福岡県総合型地域スポーツクラブ育成委員会
主管	福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会



1 企画経緯

健全者も障がい者も一緒に体験する機会創設が目的

福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会では、クラブを取り巻く多様なニーズや社会課題の解決に向け、クラブ関係者の情報交換及び連携を目的に毎年研修会を開催しています。

第2期スポーツ基本計画によると、週1回のスポーツ実施率で健全者が42.5%であるのに対して、障がい者は19.2%となっています。こうした状況を踏まえ今回は、私たち総合型クラブが、地域スポーツの担い手として、障がいの有無にかかわらず、誰もが身近な場所で気軽にスポーツを楽しめる存在となれるよう、まずは障がい者スポーツを『知る』、そして『体験する』研修会を開催することとしました。



他クラブ、パラリンピアンに協力を要請

実施にあたっては、総合型クラブとして、昨今の関心が高まっている障がいの有無にかかわらず一緒にプレーできる『インクルーシブスポーツ』の普及を目指したいとの思いから、既に障がい者スポーツに取り組んでいるクラブやパラリンピアンに講師や用具使用の協力をお願いすることとしました。

また、福岡県の協力により、今後の障がい者スポーツの活動の拠点として現状を認知することも兼ねて、会場は特別支援学校を使用することとなりました。

2 研修内容

【パラリンピアン講話】

「パラリンピアンとして総合型と関わって」

岩崎 満男 氏

(バルセロナ・パラリンピック車いすテニス日本代表)

<講話趣旨>

障がい者スポーツの普及には、
総合型地域スポーツクラブが障がい者スポーツに
介入し、広めていくことが必要不可欠



【講義・演習】

競技用車いすの使い方・管理の仕方について

井手 浩 氏(桜花台クラブ)

<講義・演習内容>

競技用車いすの基本的な取り扱い方、
メンテナンスの仕方、安全な使い方について



【演習】=障がい者スポーツ体験

競技用車いす操作&車いすバスケットボール



3回車輪をこぐ間に1回ドリブルをつくことができるルールで実施

ボッチャ



ルールや投げ方、攻め方など、ゲームを楽しむためのポイントを演習

サウンドテーブルテニス※



ボールが転がってくる音に、瞬時に判断して打ち返すことの困難さを実感
集中力が問われる競技

ブラインドサッカー※



ブラインドサッカークラブの選手が指導
視覚からの情報がなく、音で判断することが大変
仲間とのコミュニケーションが鍵

※NPO法人北九州スポーツクラブACEに所属する視覚障がいの指導者による実技指導

アキュラシー

ルールやゲーム方式を説明し、指導上の留意点も確認



3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後) ※アンケートから

「百聞は、一見にしかず」という言葉があるが、そのことを本当に実感することができた。実際に耳にはするが、やってみないと分からないし、覚えない。障がい者スポーツを体験することで、これだけ苦しいのだということも感じることもできた。共生社会の実現に向けて、困っている人は助けるということを、これから改めて実践していこうと思う。

運営者の声(実施後)

今回の研修で、これまで聞いたことしかなかった障がい者スポーツを、実際に見て、経験できたことで、スポーツの楽しさや難しさを改めて実感することができました。また、今回参加していただいた皆さんにも、このスポーツの持つ力を感じていただけたのではないかと思います。

私たち総合型クラブが、それぞれの地域において障がい者スポーツを推進するためには、実施場所や用具など多くの課題も山積しています。だからこそ、地域や行政をはじめ競技団体・民間企業などと連携して活動の充実を図ることが必要なことだと感じました。

4 今後の展望

平成23年8月に施行されたスポーツ基本法には、「障害者の自主的かつ積極的なスポーツを推進する」との理念が掲げられています。（「障がい者スポーツ」という言葉はありません）

そこで、私たち総合型クラブは、地域の子どもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず全ての人に参加してスポーツを楽しんでいただけるよう、さまざまなスポーツプログラムの準備ができるよう取り組んでいきたいと考えます。

また、これからは「障がい者のスポーツ」という壁をつくるのではなく、全ての人と一緒に自由に楽しめる「スポーツ種目」として普及に取り組み、継続して参加しやすい総合型クラブを目指していきたいと思います。

5 他団体へのアドバイス

総合型地域スポーツクラブに求められるものとして、今後は障がい者スポーツへの関わりが高まると考えます。先進的に取り組んでいくことが様々な道を切り開くことになると思います。

（公益財団法人福岡県スポーツ振興センター・連絡協議会事務局）





助成金情報

一般公募助成事業

[実施団体] (公財)ライフスポーツ財団

総合型地域スポーツクラブや地域で活動する団体で実施されている親子や幼少児を対象としたスポーツ事業(大会・教室等)に助成金を交付しています。

※大会・教室など事業に対する申請で、子ども(幼児・小学生)の参加者が30%以上であることが条件

[申込期間] 平成30年4月1日(日)～平成30年7月31日(火)

様式をダウンロードし必要事項を記入のうえ、郵送します。

<http://www.lsf.or.jp/josei>

高齢者福祉助成 (近畿 2府 4県限定)

[実施団体] (公財)大阪ガスグループ福祉財団

活力あふれる長寿社会を実現するため、高齢者を対象にした福祉活動や高齢者の社会参加を支援する活動など、「高齢社会における地域福祉づくり活動」に対して助成します。

※滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市の社会福祉協議会の推薦が必要

[申込期間] 平成30年7月1日(日)～平成30年8月31日(金)

申込書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、社会福祉協議会へ提出します。

http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/fukushi/jyosei/fukushi_detail.html



クラブアドバイザーも資質・技術の向上を目指しています！

クラブを運営されているみなさまに寄り添って活動をしているクラブアドバイザー。そのクラブアドバイザーが一堂に会して資質・技術向上のための研修を毎年受けています。

その研修の様子をご紹介します！

クラブアドバイザーとは？

クラブアドバイザーは、総合型クラブが地域スポーツの担い手として重要な役割を果たしていけるよう、クラブの創設から自立・活動までを一体的にアドバイスすることを目的に活動しています。

平成30年度、日本スポーツ協会は21道府県体育・スポーツ協会に21名のクラブアドバイザーを配置しています。

クラブアドバイザーミーティングとは？

日本スポーツ協会が配置しているクラブアドバイザー等を対象に、その資質と技能の向上を図ることを目的に実施している研修会です。

平成29年度に策定された「日本スポーツ協会スポーツ推進方策2018」及び「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」をメインテーマに、5月31日(木)・6月1日(金)の日程で行われました。

1日目 5/31(木)

▼講演兼アイスブレイク▼

「相手を動かす必殺のプレゼンテーションスキル習得セミナー」

講師：阿部 雅行氏 (株式会社 ボディチューン・パートナーズ／

日本スポーツ協会総合画委員会 企画部会員)

クラブアドバイザーは、クラブ訪問等において、伝える力が重要になってくることから、「プレゼンテーションスキル」にスポットを当て、年間250回の企業研修に登壇する講師として、年間1万人のビジネスパーソンに向けてビジネスと健康のスキルアップをサポートしている阿部氏にご講演いただきました。

講演では、相手と合意形成するためには、相手を理解することが必要となってくることから、人の行動傾向を4つに類型化したソーシャルスタイル理論や対立の種類・解決法について学びました。



2日目 6/1(金)

▼説明▼

「スポーツ推進方策2018」、「育成プラン2018」について
説明者: 日本スポーツ協会 クラブ育成課職員

日本スポーツ協会職員から、平成29年度に策定された「日本スポーツ協会スポーツ推進方策2018」、「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」の概要に加え、現在本会内で取りまとめ作業を行っている「提言『今後の地域スポーツ体制の在り方について—ジュニアスポーツを中心として—』(中間まとめ)」について説明しました。

≪日本スポーツ協会スポーツ推進方策2018 詳細はこちら(本会ホームページ)≫
<http://www.japan-sports.or.jp/about/tabid149.html#01>

≪総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018 詳細はこちら(本会ホームページ)≫
<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid394.html>

≪提言「今後の地域スポーツ体制の在り方について—ジュニアスポーツを中心として—」
詳細はこちら(本会ホームページ)≫
<http://www.japan-sports.or.jp/about/tabid149.html#04>



▼グループワーク▼

「スポーツ推進方策2018」、「育成プラン2018」の具現化に向けてできること

午前の説明を踏まえて、「総合型クラブが学校運動部活動と連携するためには」をテーマとしたグループワークを行いました。

グループワーク内容（一部）

各都道府県の総合型クラブと学校運動部活動の連携事例を共有した他、各グループの発表では、総合型クラブが学校運動部活動と連携するためには「総合型クラブの認知度不足」や「関係者間のコミュニケーション不足」といった課題を指摘する意見や、「総合型クラブが学校管理を担えるようになればよいのではないか」といった提案などがなされました。



今回参加者からいただいた意見は、今後本会が学校運動部活動との連携に関する取組を検討する際の参考といたします。





お知らせ

日本スポーツ協会情報

提言「今後の地域スポーツ体制の在り方について-ジュニアスポーツを中心として-」策定

新たな地域スポーツの創造に際し、子どものスポーツ権の保障を第一義に、中学校運動部活動の地域での支援、地域への移行の動向も見据えつつ、その受け皿となり得る「新たな地域スポーツ体制」の在り方について、18歳までのジュニア期のスポーツ体制を中心とした提言を策定し、2018年6月6日付で公表しました。

提言「今後の地域スポーツ体制の在り方について-ジュニアスポーツを中心として-」

<http://www.japan-sports.or.jp/about/tabid149.html#04>

スポーツを愛するすべての人へく日本スポーツ協会会長メッセージの発信

日本スポーツ協会は、昨今、スポーツ界において発生した各種事案により、文化としてのスポーツの価値が脅かされていることを受け、本会としての考え方を改めて示すため、メッセージを発信しました。

メッセージは概要版も作成しております。是非、各方面で掲出いただくなど、より多くの皆さまにご一読いただけるようご協力をお願いいたします。

<http://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=3770>

指導者資格情報

2018年10月1日付公認スポーツ指導者登録・更新手続きを開始します。

資格の取得および資格継続のために必要な手続きとなりますので、該当する方は期限までにお手続きいただきますようお願いいたします。

なお、該当の方には7月下旬に登録住所あてに登録手続き書類をお送りします。

(指導者マイページ保有者にはメールでもお知らせします。)

資格登録内容をご確認の上、登録料のお支払いをお願いいたします。

熱中症対策情報

夏の屋内外の運動で特に気をつけたいのが熱中症。

スポーツによる熱中症はしっかりとした予防をすれば防ぐことができます。

ガイドブックを読んで、熱中症を予防しましょう！

熱中症の病型と救急処置、スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック等についてはこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid/523/Default.aspx>



2018年度ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト (J-STARプロジェクト)

PRイベント開催のお知らせ(エントリー絶賛受付中!)

▽2018年度ジャパン・ライジング・スター・プロジェクトのチラシはこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H30/Jstar.pdf>

『J-STARプロジェクト』PRイベントを下記の通り開催いたしますので、お近くの方はぜひご参加ください。

<第1回>

日時:8月3日(金)11:00~18:00(予定)

場所:イオンモール神戸南 1階「みなとコート」

<http://kobeminami-aeonmall.com/>

内容:ミニ測定会など

<第2回>

日時:8月7日(火)11:00~18:00(予定) ※トークショー:14:00~14:30(予定)

場所:イオンモール幕張新都心 グランドモール1階「グランコート」

<http://makuharishintoshin-aeonmall.com/>

内容:トークショー(出演:鈴木大地長官、三宅宏実選手ほか)、ミニ測定会など

2018年度のJ-STARプロジェクトのエントリーについても、絶賛受付中です!

<エントリー方法・条件等>

J-STARプロジェクトホームページをご覧ください。

<https://www.j-star.info/>

※団体ごとで簡単に一括申込いただく方法もございます。

【本件に関する問合せ先】

日本スポーツ協会 国体推進部 競技支援課

Eメール:kyougi@japan-sports.or.jp

TEL03-3481-2453 FAX03-3481-2284



セミナー情報

平成30年度総合型地域スポーツクラブ ヒューマンエラー防止研修会開催

本研修会は、心理的アプローチからリスクマネジメントを学ぶことで「ヒューマンエラー(事故や損害の原因となる人為ミス)」の防止に係る意識の啓発を図り、安全・安心なクラブ経営に資することを目的に開催しています。

平成30年度の開催会場はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1073.html>

ブロック別クラブネットワークアクション2018開催

【日本スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会 主催】

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催します。

開催日についてはこちらから

※詳細は8月頃から随時掲載します。

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.aspx>

幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会開催

日本スポーツ協会(日本スポーツ少年団)が平成26年度に作成した、幼児及びその保護者等を対象にした活動プログラム「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」の効果的な活用法を周知することを目的に、地域のスポーツ少年団関係者等を対象とした講習会を開催します。

開催日時・場所・申込方法等詳細については以下のURLを参照ください。

<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid1061.html>

フェアプレイ情報

フェアプレイエピソード募集

「日本フェアプレイ大賞2019」エピソードを募集します。

スポーツ現場であなたが実践した「フェアプレイ」、あなたが見た「フェアプレイ」、感動した「フェアプレイ」など、みんなに伝えたいフェアプレイエピソードをお送りください。応募されたエピソードの中から「日本フェアプレイ大賞2019」作品を選ばせていただきます。

【エピソード募集期間】平成30年5月21日(月)～12月31日((月))

フェアプレイエピソード 投稿ページ

<https://fairplay.japan-sports.or.jp/>

日本フェアプレイ大賞2018 大賞作品のマンガはこちらから

http://www.japan-sports.or.jp/portals/0/data0/fair/inc/pdf/news/news_vol095.pdf



ラグビーワールドカップ2019™日本大会情報

来年、アジアで初、ラグビー伝統国以外で初となるラグビーワールドカップが、この日本で開催されます。世界最高峰のラグビーをぜひお楽しみください。

開催期間	2019年9月20日(金)～11月2日(土)
参加チーム	20チーム 前回大会成績によって出場権を獲得しているチーム:12チーム 予選によって出場権を獲得するチーム:8チーム
試合形式	プール戦 5チーム×4プール(プール内総当たり戦):40試合 決勝トーナメント 準々決勝/準決勝/3位決定戦/決勝:8試合
試合会場	日本全国12会場
開催都市	札幌市、岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、東京都、神奈川県・横浜市、静岡県、愛知県・豊田市、大阪府・東大阪市、神戸市、福岡県・福岡市、熊本県・熊本市、大分県

大会の詳細はこちら

<https://www.rugbyworldcup.com/>

チケットの情報ははこちら

<https://tickets.rugbyworldcup.com>

スポーツ庁

「第2回パブコン～もしもあなたがスポーツ庁長官だったら～」 国民のスポーツ実施率向上のための事業プランの公募

スポーツ庁では、第2期スポーツ基本計画において、成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%程度とする目標を掲げています。

その達成に向けて、あらゆる方策を検討し実行するとともに、国民がスポーツに親しむ機運を醸成するため、昨年度に続き、国民に対して国が実施すべきスポーツ実施率向上のための事業プランを募集しています。

スポーツ実施率の向上に向けて、日頃の活動を通じて感じていることなどをアイデアにいただき、スポーツ庁ホームページから奮ってご応募ください。

スポーツ庁パブコンホームページはこちら

http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/boshu/detail/1406512.htm

* 受付期間:平成30年8月20日(月)～9月28日(金)

* スポーツにはウォーキング、ハイキング、体操、ダンス、ヨガなども含まれます。

* パブコン=パブリック・コンペティションの略。



東京オリンピック・パラリンピック競技大会情報 「奇跡をつくる、1人になろう。」

TOKYO 2020 IDチケット申込事前登録キャンペーン

東京2020大会公式チケット販売サイトでチケットを購入する際には、TOKYO 2020 IDの登録が必要です。TOKYO 2020 IDに登録すると、メールマガジン等を通じてチケット情報はもちろん、大会関連情報が配信されます！より多くの皆様に観戦の機会を提供するために、TOKYO 2020 IDチケット申込事前登録キャンペーンを実施中！まずはID登録から！

チケット申込・購入はIDの登録から

<https://tokyo2020.org/jp/special/2020id>

更に！ID登録し、ご応募頂いた方の中から、抽選で素敵なプレゼントが当たります！

A)「TOKYO 2020事前視察ツアー」

TOKYO 2020 会場の「今」を見に行こう！

B)「東京2020公式ライセンス商品」

東京2020大会を楽しく応援しよう！

プレゼントキャンペーンの応募は、IDの登録から！

